

平成30年10月6日

平成30年度 海外インターンシップ報告書

長野大学 環境ツーリズム学部 環境ツーリズム学科 3年

実習期間	平成30年9月1日(土)～9月8日(土)	8日間
実習企業	株式会社南信精機製作所	
実習地	ベトナム・ビンズオン省	

1. 実習目的

Chapter1 purpose

私は、人と人のつながり「協働」が社会で働く上で最も重要なことだと考えています。そこで私は、急速な経済発展を続けるベトナムにおいて協働について学ぶものがあるのではないかと考えました。実際にベトナムで働くことで、現地の人と日本人のコミュニケーションの工夫や労働時間や組織管理方法などを知り、協働について深めたいです。そのために、私は海外インターンシップに志望します。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

昭和35年に長野県上伊那郡飯島町に本社が設立され、後に香港・中国・ベトナムに工場が設立されました。主に車載用電子部品などの精密部品の設計・製造・販売が中心となっています。他にも、マイクロモーター用各種整流子の設計・製造・販売、精密プラスチック金型の設計・製造なども行っています。他にはない特徴としては、設計から製造・販売まで全てを自社グループ内で行います。日本の本社で補えない分を海外の工場生産し、それを日本の本社に販売する方法で製作しています。

3. 実習日程

Chapter3 schedule

- 9月1日…ホーチミン視察、駐在員と会合
- 9月2日…人民会館・ベトナム会館などの現地視察
- 9月3日…ホーチミンからビンズオン省に移動
- 9月4日…工場見学、現地スタッフとの交流、品質管理会議参加、歓迎会
- 9月5日…企業見学(郵船ロジスティクス)、関税エリアの見学(カトライ港、ホーチミン空港)
- 9月6日…AC組み立て体験、ACの外観検査体験、自動機作業体験
- 9月7日…企業見学(ケイデン・ファイネックス)

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

9月1日～3日は休日、ホーチミン市内の視察を行いました。特に、2日は建国記念日でもあり、街中に特設会場が設置され、夜にはお祭りもあり賑やかでした。私がホーチミン視察で一番感じたことは、小企業の魅力です。ホーチミンはコンビニエンスストアなどのチェーン店を制度で規制していることもあり、日本ほど大手のチェーン店がありません。その分、多くあるのが自営業の小企業です。ホーチミンの街にはとても活気があるように私は感じました。この活気を生み出しているのは、小企業の1つ1つだと思いました。自営業で大企業ほど縛りががないため、市民が自分自身にあった方法で独特なお店を営業できます。だからこそ様々なお店ができ、ホーチミン全体に活気が生ま

れるのだと思いました。

9月4日の工場見学、品質管理会議に参加しました。工場内の公用語は日本語です。朝礼も会議も日本語で行われていました。しかし、現地スタッフ全員が日本語を話せるわけではありません。日本語を話せるスタッフが通訳することで情報共有していました。また、総務や商談なども駐在員が行うのではなく、現地スタッフが行っていました。

9月5日は主に流通管理について学びました。カトライ港では、サイゴン川を利用し船で流通をしていました。経済発展によりベトナムに工場が増えベトナムから輸出されるものが増え続けられているため、常に混雑している様子でした。ホーチミン空港では、各流通業者が場所を設けられ、そこで箱詰めなど作業をしていました。関税エリアで限られた人しか入ることのできないエリアということもあり、雑に商品が扱われている面も見られました。

9月6日はACというコピー機で使用される小さなモーターの組み立て・外観検査体験をさせてもらいました。米粒並みの細かな部品を使用し手作業で組み立て、外観検査をすることはすごく手間がかかり大変でした。このような外観検査や手作業は女性が多く行っていました。また、こういった外観検査は日本人スタッフに劣らないほどベトナム人スタッフは繊細だと知りました。

9月7日はビンズオン省にある日系企業に行きました。ケイデンでは、メッキを扱っており手作業が多くたくさんの従業員が必要とされていました。そのため、日本のように派遣で働いている従業員も10名ほどいました。ファイネックスでは、金型や精密機械が作られていました。工場内にサッカーグラウンドがあったり、社員旅行があったりし福利厚生が充実していました。ベトナム人は賃金だけでなく労働環境やワークライフバランスも重要視していることがわかりました。

5. 実習の成果（成長した事）

Chapter5 result

私がこの海外インターンシップを通して一番変化したことは、「海外で働くことに対する考え方」です。私は、ベトナムに行く前に海外に行くことすら抵抗感がありました。ましてや働くとなると本当にマイナスのことばかりイメージしていました。しかし、実際に海外インターンシップに行き、駐在員さんや郵船ロジスティクスの野口さん、ファイネックスの戸田さんとお話しさせてもらって、海外で働くことに対する考え方が大きく変わりました。みなさんが口を揃えて言っていたことは、日本で働いていて起きる問題がとても小さな問題に感じると言っていました。文化が全く違う人と場所で働くことは大変なことも多いがその分やりがい大きいと言っていました。私は、海外で働くことは、普段の食事や休みの存在が最も重要な時間になると感じました。

また、文化が違う人と協働するために重要になることは、労働時間以外の「日常」だと感じました。昼休みに卓球をして一緒に汗を流すことや誕生日会を開催するなどして、普段の生活から関わることで協働するために重要なことだと感じました。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

私は、今回の海外インターンシップを通して2つの課題が出ました。1つは、もっといろいろな人と話をできるようにすることです。今回、自分は現地スタッフと積極的に話そうと目標を立てて、コミュニケーションをとることを大切にしてきました。しかし、どうしても日本語や私の勉強不足の英語ではコミュニケーションができない面がありました。私は、話したいことがあっても通じないことがすごく悔しく思いました。だからこそ残りの大学生活で自主的にもっと語学を勉強していきます。また、今まで関わったことのない人とも積極的にコミュニケーションをすることで様々な知識を、コミュニ

ケーションを通して得られるようにします。

2つ目は、職種についてもっと深く調べることです。今回の海外インターンシップで郵船ロジスティクスという流通関係の仕事を知ることができました。また、ベトナムの工業団地は日本の企業だけでなく、海外の企業がたくさんありました。今まで知らなかった会社がたくさんあり、日本企業だけにとらわれることなく、海外の企業にも目を向けることも大切だと感じました。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

私は、海外の人と関わりたい人や話してみたい人で、留学までは金銭的に厳しかったり自信がなかったりする人は海外インターンシップに参加するべきだと思います。実際に一緒に働くことでたくさんコミュニケーションをとることができたり、日本と海外での生活の違いについて実感できたりします。留学や旅行よりも現地の暮らしを体験できます。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

今回の海外インターンシップを実施させていただいた南信精機製作所の紫芝課長はじめたくさんの方々にお世話になりました。飛行機や宿泊所の手配までして頂いたおかげで、なに1つ問題なく安全に実施することができました。貴社のこれからのご活躍を心よりお祈り申し上げます。